

2

七つの神社を巡る 亀岡八幡宮

All Are One ダグラス・ブラック

空が ぱっと広がるところ

ダグラス・ブラックさんのアトリエは、益子から車で三十分ほどの茂木町にある。八溝山地を鮎が遡上する清流・那珂川が流れる谷筋。わかりにくい場所だから近くまできたら電話をしてください。そんなメールを受けて、指示された場所から電話をかけた。「森に入ってしまったら進むと、突然、空がぱっと広がるところ。そこに在ります」

ほとんどをセルフビルドでつくり続けているというアトリエと自宅は、下に那珂川を見下ろす緩い傾斜地にあった。ダグラスさんは、アメリカのカンザス州で生まれ育ち、コロンバス芸術大学で学んだのち陶芸を学ぶために来日する。初めは三重県で修行をし、その後、師事するために茂木町へ移る。来日が一九九〇年なので、もう三十年近くを茂木町で暮らしていることになる。

이었다。自然に惹かれてここに来たけど、今では、出会った人たちの繋がりでここにいるようなものです」

大地に根ざし、 宇宙をあおぐ。

ダグラスさんの土祭への参加は、今回が三回目となる。展示会場となる亀岡八幡宮に通いながら作品のコンセプトを固めてくる。「All Are One」というタイトルで、境内や隣接する丘陵地の小宅古墳群のエリアに新しい風景をつくりたいと考えている。過去の作品や今回のコンセプトの話を伺っていると、生き方としても表現のベースとしてもダグラスさんが大切にしているキーワードが浮かび上がる。

文化と農業。
過去と未来。
大地と宇宙。
「大地にグラウンディングする

今回のタイトルに入る言葉「All」には、ダグラスさんが自然界から感知するさまざまなシグナルや、これまで暮らしたり作家として訪れた国々で出会った人々のことなどが、壁も境界もなく包摂されるのだろう。
益子の土地に作品が立つとき、その上には、空がぱっと広がり、私たちの未来も視界が開ける。そんなインスピレーションを与えてくれるはずだ。

「朝9時くらいまでは、那珂川から立ち上る霧がかかる。今日みたいな雨の日は、蜘蛛の巣にできる水滴がとてもきれいだし、夜にフクロウの声が聞こえたり……。ウサギやリス、狐や狸もいる。もちろん蛍も」

最初に紹介されて住んでいたのは、もつと川沿いの古い藁葺きの家。初めて入ったときは、前に住んでいた人の洗濯物が干されたままで、狸が住んでいた。「今も茂木の自然は素晴らしいけど、昔はもつと川の水もきれ



展示会場 | 七井地区 亀岡八幡宮

所在地：益子町大字小宅 1369-1

後冷泉天皇の康平年中、源義家が勅命を奉じ奥州の安倍氏を征伐の途次現在の小宅付近の館に宿した。その時芦名沼上に大霊亀が現れ奇端を示したので、大いに喜び進み夷賊を討滅、凱旋の後社殿を創建し康平7(1064)年、勅命によって亀岡八幡宮と称したことに始まる。1197年社殿を芦沼から現今の小宅に遷座。また徳川家康・家光公より神領・領地が寄進。現在の本殿は1881年造営。(亀岡八幡宮 境内案内より抜粋)

土祭 2015 で発表した作品
「Under One Sky」



土祭 2018 で発表した作品
「Remember the Future」



ダグラス・ブラック
Douglas Black

アメリカ出身、1987年粘土が僕をみつづける。1990年来日。
「Beauty of our mystery 不思議なことと未知の中に存在する美しさ」に気付く、大切にしたいというメッセージを込め作陶している。
2018年フランスに滞在制作し、プロバンスのテラロッサ美術館で個展を開催する。2021年サンタフェ、エルスワースギャラリーで展示会を開催予定。